研究室紹介

～微生物学・臨床検査学研究室～

担当教員：井越尚子教授
学生：田中彩衣、嶋木彩乃

【研究内容】

〈テーマ〉

「臨床検査技師の現状と将来展望を考える。医療現場を調査し、技師が関わる現状を知ることで自分たちのするべきことを考える。」

〈活動内容〉

関東県内で在宅の現場で活躍する臨床検査技師のもとを訪ね、実際の訪問診療の研修を行う。

臨床検査学コースの学生に在宅やチーム医療の知識・意識についてのアンケート調査を行う。

↓

研修から把握した現状・感じたことと、アンケート調査の結果を分析しまとめ、臨床検査技師の将来展望を考える。

【研修の様子】

①狭山市にある杏クリニックさん
(在宅療養支援診療所)

車移動で同行させて頂き、1日在宅医療の様子を見学した。

医師、臨床検査技師が患者の家に伺い、診療を行っていた。

【研修の様子】

②ハピタルハウスstyle狭山さん

(住宅型有料老人ホーム)

ここは終末期の患者さんが最期を迎える場であり、どのような治療や生活のサポートが行われているのかの見学をした。

医師だけでなく、看護師、薬剤師、臨床検査技師が同行し、医療方針を決めていた。

【最後に】

日本では、世界に類を見ないスピードで超高齢化社会、いわゆる団塊世代が75歳以上になる少子高齢社会が2025年を目途にピークを迎えます。医療は病院型の『病気を治す医療』から、地域医療型の『暮らしの中で支える医療』がますます求められます。病院に勤める臨床検査技師も勿論重要で、その中でもチーム医療に加わりながら業務を遂行しています。その枠を地域に広げ、患者や家族に直接寄り添うのが在宅支援に関わる仕事になります。まだ都会には数える程度しかおらず、これからの活躍の場となります。

栄大生科学専攻の強みは栄養学を学び栄養士資格のあることです。さらに臨床検査技師ならば、臨床栄養検査技師であると私は考えています。この卒研が学生の特権を最大活用して、自分たちの可能性と挑戦する活力になると信じています。頭の柔らかい、対応力のある技師になって欲しいと言う思いです。

担当教員　井越尚子

コロナ禍で在宅医療が注目されたことから興味を持ち、研究室に入りました。実際に、在宅医療の現場を見学し、自身が想像していたものと違うことが多く、良い刺激を受けました。また、在宅医療で活躍する臨床検査技師さんに直接、在宅医療で求められることややりがいなどの話を聞くことができました。この経験から、コミュニケーションが大切であることを深く感じました。他職種の連携から患者さんの内面的な苦痛を和らげることまで、多くの場面で必要とされていました。また、在宅医療では、延命治療ではなく、患者さんや家族の意見を尊重して医療方針を決めていたことから、患者さんの気持ちを聞き出すことにおいてもコミュニケーションは重要だと感じました。

大学の授業だけでは、経験のできないことを研究室では、積極的にできると思います。将来の進路を考える上でも視野を広げることができると感じます。

興味のある方はぜひ！お待ちしています！

学生　田中彩衣

私は今まで、「在宅医療」について名前以外何も知りませんでした。しかし、卒業研究のテーマで「在宅医療」を取り上げたことで、実際に在宅医療の場で働く臨床検査技師の様子を見学できる貴重な機会を頂くことができ、今まで自分が想像していた臨床検査技師の姿とは全く異なる姿を知ることができました。様々な検査を１人でテキパキこなすやりがいや、在宅で治療を行うことによる、病院よりも患者さん１人１人とコミュニケーションを長くとれること等の、在宅医療で働く臨床検査技師の魅力を肌で感じました。

卒業研究では、自分の少しでも興味のあることを、時間をかけ新たなことを知ることができる場だと思います。私達の研究室は、人数が５名と少人数(２名と３名のグループに別れ異なる研究を行っています。)で、活動も相談しながら無理なく自分達のできるペースで行っています。非常にアットホームな雰囲気です☀

ぜひお待ちしています(^^)

学生　嶋木彩乃